



第5章

ディスプレイに表示されたx-y特性が大好き! JPEG/GIF/BMPなどのファイルも食べちゃう

曲線/棒線/折れ線...なんでも来い

RODEM-G  
スクアナ

嶋崎 靖志 Yasushi Shimasaki

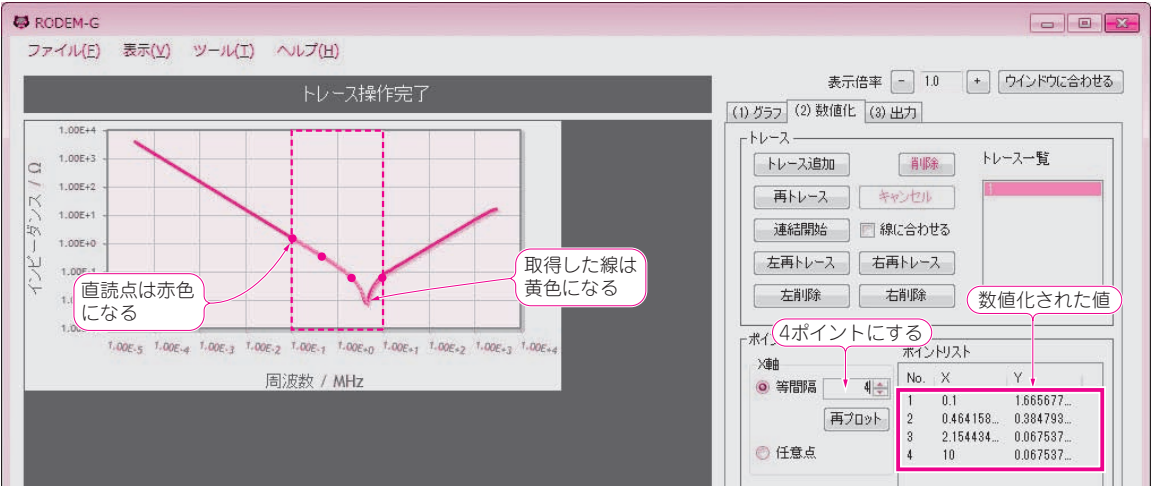


図1 RODEM-Gは数値化されていないグラフをトレースしてxとyのデータを生成する  
見やすいようにポイント欄を4ポイントに変更する

● グラフの数値化をいろいろ試してみたけど、RODEM-Gが一番使いやすい

製品の特性を確認するために、欠かせないものが「グラフ」です。

中にはすでに画像化されてしまったものや、印刷されてしまったものも多々存在します。そういうデータに限って、元の数値情報が必要になったりしがちです。特性データの数値を読むために、グラフを定規で測ったりします。

コンピュータが誰でも使えるようになった今の時代ではまず、フリーのソフトウェアを探します。実際にそのような用途のソフトウェアはいくつか存在します。使ってみたところ、思ったようなデータが取れなかったり、データの取得方法が面倒だったりします。手で測るのと同じ位の手間がかかるものもあります。

RODEM-G(モーデック)は、パソコンの画面に表示されたグラフ上の線をトレースし、値を抽出するソフトウェアです(図1)。

本稿では、RODEM-Gのフリー版を(付録DVD-ROM フォルダ28\_RODEM-G)使って、部品メーカーのデータシートの特性グラフからほしい値を数値化する方法を解説します。

RODEM-Gは手間いらず

● [理由1] ワンクリックでグラフ全体を一気に取り込んでくれる

私の周りには、電子部品のSPICEモデルを作成するエンジニアがたくさんいます。生データが存在または入手できるときはいいのですが、ディスクリット部品などは、特性を表す生データがないことが多いので、ベンダのホームページからデータシートをダウンロードしています。

ダウンロードしたデータシートは、グラフとしてプロットされただけのものが多いです。作成したモデルが仕様を満足しているか調べるには、特性の数だけグラフを数値化してシミュレーション結果と重ねる必要